

2023年10月25日

2335号

(毎月5,15,25日発行)

1950年12月16日第三種郵便物認可

1部140円月額400円(郵便料月額126円)

平和新聞

京都版

発行 日本平和委員会

〒105-0014 東京都港区芝 1-4-9 平和会館

電話 03(3451)6377 FAX 03(3451)-6277

振替 00100-4-83731

E-Mail(編集部) heishin@j-peace.org

<http://j-peace.org>

E-mail: kyo-hei@crest.ocn.ne.jp 編集 京都平和委員会 Tel.075-811-3203 Fax 075-811-3213

「日本平和大会 in 鹿児島」と丹後の「いらんちゃ」を連携！ 大軍拡・「戦争国家」づくりNO!のうねりを京都から！



米軍基地は
いらんちゃ!
FESTA2023 11.12 SUN 13:30
@丹後文化会館 YouTubeでも中継します

秋の取組みの最大のヤマ場、2023年日本平和大会と「いらんちゃフェスタ」まであと1カ月を切りました。以下ではそのスタートダッシュにふさわしい地域の取組みを紹介いたします。

戦争展、視聴会、基地監視等、
平和を守る拠点として
平和委員会の活動が活発化!

日本平和大会乙訓で
視聴会を設ける

乙訓平和委員会
米重節男

乙訓平和委員会は、10月14日に学習会を開きました。ロシアのウクライナ戦争で、川田忠明さんの講演録画がアップされたのを、役員4人で視聴しました。長引くウクライナ戦争の裏で、国際社会の動き、この戦争に対する見方や平和運動のあり方など、多岐に及ぶ話に納得でした。この話をもっと広く知ってほしい、軍事企業が大儲けしている、戦争が長引けば良いとの姿勢だとの話に、日本の軍事



盛況だった映画上映会-乙訓平和のつどい

産業企業も例外では無いとの意見も出されました。相談の結果、11月の日本平和大会の視聴会場を乙訓で設けることにしました。

乙訓では、10月1日に乙訓平和のつどいを開き、映画「放射線を浴びたX年後Ⅲ フォール・アウト」を上映しました。アメリカの核実験で米国本土全体が放射能汚染されていた事実と、政府が隠したこと、子どもたちの乳歯を集めて実証した母親たちの運動を中心に、核の被害を告発したドキュメント映画です。48人が参加し、映画支援カンパも25000円が寄せられました。

この秋、戦争展にむけて
福知山平和委員会
水谷徳夫

「2023平和のため福知山戦争展」は、月末の28日・29日に迫ってきました。今その準備の最終段階。テーマは「ウクライナから世界・東アジア日本の平和を考える」。そして、福知山の平和も考えます。

今月3日午前に突然、福知山と綾部の空、低空かすめて二機の自衛隊輸送機が、轟音と共に通過しました。直下の支援学校では学校全体が大騒ぎ、「音がものすごく、気持ち悪い。迫ってくる感じ。今まで聞いたことのないものすごい音」との教職員の証言。



低空を飛ぶ自衛隊輸送機

二機目は北の山の端で旋回して、一機目の後を追って北へ去って行きました。その間、数分の出来事。

京都北部には、陸海空の自衛隊駐屯地があり、米軍はXバンドレーダー基地(京丹後)、ミサイル整備所(舞鶴)、実弾射撃場(福知山)があります。これら日米の軍事施設は、互いに連携した「ミサイル防衛網」を形成し、「台湾有事」に備えます。わが町福知山は、その一翼を担います。

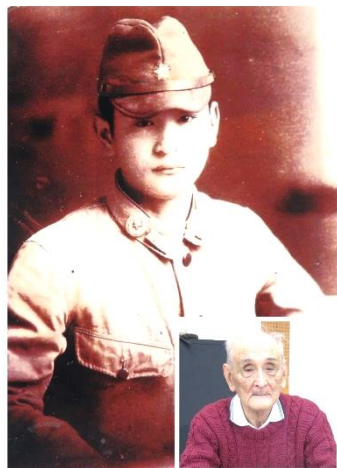
戦争展は、現実の世界の動きの中で、わが町の平和を学ぶ場にします。

【C2輸送機の低空飛行
についての補足】

撮影された写真から鳥取県にある航空自衛隊美保基地所属の機体(C2輸送機)と判明、航跡データでは高度は約600メートル程度と低いもの。美保基地側は京都民報の取材に対し「通常の訓練で、航空法は順守している」という受け答えをしたという。全国的にも低空侵入のような訓練が広まるのではないかと危惧される。

「京都平和委員会
Facebook 10/17」より

小畑 哲雄が語る
知られざる 戦中・戦後の体験
闇のなかの光の粒、束となれ



2022年1月、同年8月
小畑哲雄 講演の記録

発行：京都・八幡平和委員会

八幡平和委員会が待望の講演記録を発刊!!

「新しい戦前」の道へ踏み出そうとしている今、「平和の準備」にともに力を合わせたい!!

八幡平和委員会 日名子大介

八幡平和委員会は『小畑哲雄が語る―知られざる戦中・戦後の体験(22年1月、8月の講演記録)』を11月初めに発刊します(頒価500円予定)。会員・読者の皆さんにその一部をご紹介します。

はそれこそ「知られざる」「驚くこと」ばかりのものであった。

●60人単位の「区隊」の区隊長(担任)である荒川氏の「教え」「行動」は!?

・荒川区隊長の指導方針は、「指揮官は部下を殺してはいけない」と言う。

・天皇から下賜された銃のネジをなくした小畑さん。探すも見つからない。区隊長に報告すると何も言われなかった。小畑さん

の銃は敗戦までそのままであった。

・小畑さんの当直時、レーニンの本を持って現れ議論を吹っかけてきた区隊長。「レーニンなんか読んだことがないだろう。誰にもわからんように隠しとけ」!!

●同じ故郷の熊本県出身の高田君が病気で「自宅療養」になった真の理由は!

戦後高田君が語ったのは、「戦争に勝つだろうか?」「天ちゃん(神様)ではない、人間だ」と同じ病室の儀我君と語りあった、その結果2人とも病状悪化との理由で「自宅療養」で熊本に帰省。「強いられた死の淵」から脱出したのであった。

●敗戦直前の混乱と緊張

360名の中隊(経理学校の8期生)の会津磐梯山への「疎開」か「本土決戦」かの運命はいかに?

まるでドラマの様な展開。戦時中に国民や兵士が、強いられた自己犠牲・使命感の高揚感に包み込まれていても、他方それぞれが、恐れ、疑問、躊躇、忌避、抵抗など多様なおもいを

もっていたのは確かだ。

何よりも「強制される死」にたいし、「とにかく生きたい」、自由で幸せな人生をという人間の根源的な願いを、権力をもつてしても消し去ることはできないのだから。

今回の小畑さんの「知られざる体験」や後々語られる多くの「証言」からも私たちはあらためてそのことを知ることができる。

敗戦後の日本が「平和と民主主義」への道を歩みだすそのエネルギーに、これらの「感情・行動(=光の粒)が通底し転化(=光の束)したことは間違いないと思われる。

日本が「新しい戦前」への道へ踏み出そうとしている今こそ、『講演の記録』を多くの方に届け、「平和の準備」にともに力を合わせたい。切に思う。

日本平和大会二に

京都代表団として参加

名取哲夫(舞鶴)

岸田内閣の大軍拡にストップをかけるため、平和を守る取組がさらに進んでいくことを期待します。日本平和大会成功のために、代表団も仲間の皆さんもともに頑張らしましょう。



【京都平和委員会新入会員のご紹介】

中井 朋聡さん



今年6月10日に京都平和委員会に入会した中井朋聡(ともあき)です。私は現在、京都市左京区にある京都民医連の事業所川端診療所で事務の仕事をしています。今年で民医連の事業所で仕事をするようになって22年が過ぎました。趣味は、バイクに乗ることとスキーをすることです。

私は日頃、仕事をしながら平和運動にも取り組んでいます。その中で強く思うのは、平和だからこそ豊かな医療、介護、福祉が保証されるということです。地域で暮らす人たちが、戦場に行くようなことがあってはならないと思います。黙っているだけでは、どんどん平和が脅かされてしまいます。だから、みんなで力をあわせて大いに声をあげていきたい。こんなに生活が大変、医療が切り捨てられているこんな時に、岸田首相はあろうことか、むこう5年間で軍事費を43兆円にまでしようとしています。こんなことは絶対に許せません。今こそ軍事費よりも医療・社会保障にお金を回せ、この声を大いに広げていきましょう。宜しくお願いします。